イヤホンぽとり駅員ひやり

平日はほぼ毎日、大阪市立大の図書館に通っている。地下鉄御堂筋線の「あびこ駅」まで 35 分余り地下鉄に乗る。朝の東三国駅では、乗車するのも困難なほどの大混雑。次の新大阪駅で降りて、ここが始発の電車を待つことにしている。

いつも同じ顔ぶれが並ぶ。そのなかに耳から白い「棒」のようなものが出ている人が。最初は耳が悪くて、補聴器をつけているのかと思っていた。それがイヤホンとは知らなかった。イヤ、ホンまに。

こんなことをフェイスブック仲間に投稿したら、珍しく反響があった。ほんの 2 週間前のことだ。そして写真の朝日新聞 11 月 19 日夕刊に標題の記事を見つけた。これを読んで、初めて知ったことも多かった。抜粋して紹介したい。

イヤホンぽとり駅員ひやり

ワイヤレス型 線路へ落とし物増

終電後に回収も／「線路に降りないで」

ワイヤレスイヤホンが鉄道の駅員たちを悩ませている。左右のパーツが独立したタイプの普及とともに、線路に落とす例が後を絶たないからだ。落としても、ホームから線路に降りるのはご法度。鉄道各社は「絶対に降りないで」と呼び掛けている。

線路に落ちてしまったらどうするか。まずは駅員が落とし主とホーム上から確認するが、大きさはせいぜい数センチ。バラスト(砕石)の中に入り込んで見つからないことも多いという。こうした場合は、終電後に駅員が線路に降りて、バラストの隙間などを探して回ることになる。運良く落とした直後に見つかっても、簡単に戻ってくるとは限らない。各駅で落とし物を拾い上げるのに使われる通称「マジックハンド」では、小さすぎてなかなかつかめないからだ。駅員が線路に降りるとなると、電車の運転間隔が十分広がるまで待たねばならず、過密ダイヤの首都圏では終電後になることも多いという。

白い棒のようなイヤホンの正体は―ワイヤレスイヤホンは、ブルートゥースなどの無線通信でスマートフォンやオーディオプレーヤーと接続。コードにわずらわされずに楽を楽しめる。

普及が進んだのは、米アップル社が 2016 年に発売した「iPhone7」シリーズがきっかけだ。イヤホン端子を廃止し、左右が独立した完全ワイヤレスイヤホンを売り出したことで人気に火が付いた。

調査会社「GfK ジャパン」にると、19 年上半期のイヤホン販売動向では、ブルートゥース対応機器が全体の 4 割余を占め、このうち完全ワイアレスの売れ行きは前年の 2 倍を超える勢いだという。

ワイヤレスイヤホンが鉄道の駅員たちを悩ませている。左右のパーツが独立したタイプの普及とともに、線路に落とす例が後を絶たないからだ。落としても、ホームから線路に降りるのはご法度。鉄道各社は「絶対に降りないで」と呼び掛けている。

線路に落ちてしまったらどうするか。まずは駅員が落とし主とホーム上から確認するが、大きさはせいぜい数センチ。バラスト(砕石)の中に入り込んで見つからないことも多いという。こうした場合は、終電後に駅員が線路に降りて、バラストの隙間などを探して回ることになる。運良く落とした直後に見つかっても、簡単に戻ってくるとは限らない。各駅で落とし物を拾い上げるのに使われる通称「マジックハンド」では、小さすぎてなかなかつかめないからだ。駅員が線路に降りるとなると、電車の運転間隔が十分広がるまで待たねばならず、過密ダイヤの首都圏では終電後になることも多いという。

(2019 年 11 月 24 日)